

楽典Ⅰ

授業形態		講義		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	記譜法とそれを理解する為に必要な基礎概念、用語を学ぶ				
到達目標	音楽に携わる者として最低限の知識やその役割を理解して、音楽業界人としての教養を身につける。				
教材	楽典 理論と実習（音楽之友社） プリント教材				
年間授業計画					
1 五線・譜表・音部記号	37 -	73 -	109 -		
2 音名・臨時記号	38 -	74 -	110 -		
3 音程1	39 -	75 -	111 -		
4 音程2	40 -	76 -	112 -		
5 転回音程・複音程	41 -	77 -	113 -		
6 音符と休符1	42 -	78 -	114 -		
7 音符と休符2	43 -	79 -	115 -		
8 リズムと拍子1	44 -	80 -	116 -		
9 リズムと拍子2	45 -	81 -	117 -		
10 音階1	46 -	82 -	118 -		
11 音階2	47 -	83 -	119 -		
12 調号	48 -	84 -	120 -		
13 移調楽器	49 -	85 -	121 -		
14 速さ、強さに関する表示法	50 -	86 -	122 -		
15 舞曲の種類	51 -	87 -	123 -		
16 前期授業内テスト	52 -	88 -	124 -		
17 テスト解説	53 -	89 -	125 -		
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -		
19 調号と音階	55 -	91 -	127 -		
20 調の相互関係1	56 -	92 -	128 -		
21 調の相互関係2	57 -	93 -	129 -		
22 移調と転調	58 -	94 -	130 -		
23 調の判定1	59 -	95 -	131 -		
24 調の判定2	60 -	96 -	132 -		
25 調の判定3	61 -	97 -	133 -		
26 三和音	62 -	98 -	134 -		
27 七の和音	63 -	99 -	135 -		
28 和音の転回	64 -	100 -	136 -		
29 和音の機能	65 -	101 -	137 -		
30 発想標語	66 -	102 -	138 -		
31 奏法に関する表示法	67 -	103 -	139 -		
32 略記法	68 -	104 -	140 -		
33 演奏時間の計算	69 -	105 -	141 -		
34 後期授業内テスト	70 -	106 -	142 -		
35 テスト解説	71 -	107 -	143 -		
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -		
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験	○				
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

音楽史 I

授業形態		講義		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	①作曲家と活躍した時代・国などを学ぶ。 ②有名な作曲家の代表作品について学ぶ。				
到達目標	世界音楽の歴史を通じ曲や演奏法がどのように発展していったかを学び、演奏や関係の仕事に役立てることを目標とする。				
教材	大人の音楽史入門(ヤマハ・ミュージック・メディア) プリント教材				

年間授業計画

1 古代文明の中の音楽	37 -	73 -	109 -
2 グレゴリア聖歌の成立	38 -	74 -	110 -
3 中世の音楽	39 -	75 -	111 -
4 ポリフォニーの発生とその進展	40 -	76 -	112 -
5 ノートルダム楽派	41 -	77 -	113 -
6 トルヴァードール達とその周辺	42 -	78 -	114 -
7 中世の音楽理論と記譜法の変遷	43 -	79 -	115 -
8 定量記譜法	44 -	80 -	116 -
9 教会旋法から全音階へ	45 -	81 -	117 -
10 聖ヨハネ賛歌と階名の起源	46 -	82 -	118 -
11 ルネサンスの音楽	47 -	83 -	119 -
12 アルスノヴァの音楽とモテット	48 -	84 -	120 -
13 14世紀イタリアの世俗音楽	49 -	85 -	121 -
14 イギリス音楽とダンスタブルの影響	50 -	86 -	122 -
15 ネーデルランド楽派の音楽活動	51 -	87 -	123 -
16 ウイラールトとベネチア楽派	52 -	88 -	124 -
17 宗教改革とローマ楽派	53 -	89 -	125 -
18 授業内試験	54 -	90 -	126 -
19 バロックの音楽	55 -	91 -	127 -
20 カメラータと歌劇の誕生	56 -	92 -	128 -
21 モンテベルディの歌劇	57 -	93 -	129 -
22 イタリア式序曲	58 -	94 -	130 -
23 オペラセリアとオペラブッフア	59 -	95 -	131 -
24 フランスの歌劇	60 -	96 -	132 -
25 イギリスとドイツの歌劇	61 -	97 -	133 -
26 バロック時代の楽器と器楽	62 -	98 -	134 -
27 バッハとヘンデルその他の作曲家	63 -	99 -	135 -
28 古典派の音楽	64 -	100 -	136 -
29 古典主義音楽の背景	65 -	101 -	137 -
30 ブフォン論争とグルック	66 -	102 -	138 -
31 オーケストラ音楽とマンハイム楽派	67 -	103 -	139 -
32 ハイドンとモーツァルト	68 -	104 -	140 -
33 ベートーヴェンの登場	69 -	105 -	141 -
34 古典主義音楽の確立とその意義	70 -	106 -	142 -
35 古典派からロマン派への変遷	71 -	107 -	143 -
36 授業内試験	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験						

成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

木管修理講義 I

授業形態		講義		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	クラリネット・フルートの構造を理解し各楽器に合った修理法の理論を学ぶ。				
到達目標	木管楽器修理に関する方法や理論を理解し、実際の修理に役立てることを目標とする。				
教材	新しい楽器学と演奏法(ヤマハ株式会社) リント教材				

年間授業計画

1 各部名称・構造について	37 各部名称・構造について	73 -	109 -
2 木管楽器修理専用工具について	38 フルート基本構造1	74 -	110 -
3 クラリネット歴史	39 フルート歴史	75 -	111 -
4 クラリネット分解組立技術講義1	40 フルート分解組立技術講義1	76 -	112 -
5 クラリネット分解組立技術講義2	41 フルート分解組立技術講義2	77 -	113 -
6 タンポ交換技術講義1-1	42 タンポ交換技術講義1-1	78 -	114 -
7 タンポ交換技術講義1-2	43 タンポ交換技術講義1-2	79 -	115 -
8 クラリネットタンポの種類と特長	44 タンポ交換技術講義1-3	80 -	116 -
9 タンポ交換技術講義2-1	45 フルートタンポの種類と特長	81 -	117 -
10 タンポ交換技術講義2-2	46 タンポ交換技術講義2-1	82 -	118 -
11 管体材質の種類と特長	47 タンポ交換技術講義2-2	83 -	119 -
12 タンポ調整技術講義1-1	48 タンポ交換技術講義2-3	84 -	120 -
13 タンポ調整技術講義1-2	49 フルート基本構造2 (構造バリエーション)	85 -	121 -
14 リングキ高調整 (キー曲げ修正について)	50 タンポ調整技術講義1-1	86 -	122 -
15 タンポ調整技術講義2-1	51 タンポ調整技術講義1-2	87 -	123 -
16 タンポ調整技術講義2-2	52 管体材質の種類と特長	88 -	124 -
17 キーコルクの役割について1 (キー開き)	53 タンポ調整技術講義2-1	89 -	125 -
18 キーコルクの役割について2 (キー高き)	54 タンポ調整技術講義2-2	90 -	126 -
19 クラリネット音域について	55 キー・コルク・フェルトの役割について	91 -	127 -
20 キーコルクの役割について3 (キー連動)	56 連動調整技術講義1-1	92 -	128 -
21 下管連動ディスカッション1 (キーコルク役割まとめ)	57 連動調整技術講義1-2	93 -	129 -
22 下管連動ディスカッション2	58 キー開き・アソビ調整技術講義1	94 -	130 -
23 連動調整技術講義1-1	59 キー開き・アソビ調整技術講義2	95 -	131 -
24 連動調整技術講義1-2	60 ヘッドコルク交換方法	96 -	132 -
25 開き調整技術講義1-1	61 頭部管について1	97 -	133 -
26 開き調整技術講義1-2	62 頭部管について2	98 -	134 -
27 特殊工具について	63 ジョイント部勘合調整1	99 -	135 -
28 特殊工具加工	64 ジョイント部勘合調整2	100 -	136 -
29 ガタ・アソビ調整技術講義1	65 フルートメーカー専門用語しらべ1	101 -	137 -
30 ガタ・アソビ調整技術講義2	66 フルートメーカー専門用語しらべ2	102 -	138 -
31 ジョイントコルク交換1	67 フルートメーカー専門用語しらべ3	103 -	139 -
32 ジョイントコルク交換2	68 フルートメーカー専門用語しらべ4	104 -	140 -
33 試奏、レジスターキータンポ	69 試奏	105 -	141 -
34 最終調整・確認	70 最終調整2	106 -	142 -
35 前期授業内試験	71 後期授業内試験	107 -	143 -
36 前期まとめ	72 後期まとめ	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

木管修理講義Ⅱ

授業形態		講義		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	サククス及び特殊楽器(オーボエ・ファゴットなど)の修理方法を学ぶ。				
到達目標	木管修理講義Ⅰで学んだ事を応用・発展させ、より高度な方法や理論を理解する事を目標とする				
教材	新しい楽器学と演奏法(ヤマハ株式会社) プリント教材				

年間授業計画

1 各部名称・構造について	37 ピッコロ各部名称・構造	73 -	109 -
2 サクソ分解・組立技術講義1	38 ピッコロ分解・組立技術講義	74 -	110 -
3 サクソ分解・組立技術講義2	39 ピッコロタンポ交換技術講義1	75 -	111 -
4 サクソの歴史について	40 ピッコロタンポ交換技術講義2	76 -	112 -
5 タンポ交換技術講義1-1	41 ピッコロ連動調整技術講義1	77 -	113 -
6 タンポ交換技術講義1-2	42 ピッコロ連動調整技術講義2	78 -	114 -
7 各メーカーについて	43 ピッコロ開き調整・アソビ調整技術講義1	79 -	115 -
8 タンポ交換技術講義2-1	44 ピッコロ開き調整・アソビ調整技術講義2	80 -	116 -
9 タンポ交換技術講義2-2	45 試奏	81 -	117 -
10 調整工具について	46 オーボエ各部名称・構造	82 -	118 -
11 タンポ調整技術講義1-1	47 オーボエ分解・組立技術講義	83 -	119 -
12 タンポ調整技術講義1-2	48 オーボエタンポ交換技術講義1	84 -	120 -
13 サクソ奏者について	49 オーボエタンポ交換技術講義2	85 -	121 -
14 タンポ調整技術講義2-1	50 オーボエ連動調整技術講義1	86 -	122 -
15 タンポ調整技術講義2-2	51 オーボエ連動調整技術講義2	87 -	123 -
16 キィフェルト・コルクの役割について	52 オーボエ開き調整・アソビ調整技術講義1	88 -	124 -
17 キィフェルト・コルク交換1	53 オーボエ開き調整・アソビ調整技術講義2	89 -	125 -
18 キィフェルト・コルク交換2	54 試奏	90 -	126 -
19 連動調整技術講義1-1	55 ファゴット各部名称・構造	91 -	127 -
20 連動調整技術講義1-2	56 ファゴット分解・組立技術講義	92 -	128 -
21 連動調整技術講義2-1	57 ファゴットタンポ交換技術講義1	93 -	129 -
22 連動調整技術講義2-2	58 ファゴットタンポ交換技術講義2	94 -	130 -
23 開き調整技術講義1-1	59 ファゴット連動調整技術講義1	95 -	131 -
24 開き調整技術講義1-2	60 ファゴット連動調整技術講義2	96 -	132 -
25 開き調整技術講義2-1	61 ファゴット開き調整・アソビ調整技術講義1	97 -	133 -
26 開き調整技術講義2-2	62 ファゴット開き調整・アソビ調整技術講義2	98 -	134 -
27 特殊工具について	63 試奏	99 -	135 -
28 ガタ・アソビ調整技術講義1	64 木管楽器バネの種類	100 -	136 -
29 ガタ・アソビ調整技術講義2	65 バネ交換方法	101 -	137 -
30 ネックコルク交換1	66 ノックピン交換方法	102 -	138 -
31 ネックコルク交換2	67 キィ可動不良修正1	103 -	139 -
32 最終調整・確認1	68 キィ可動不良修正2	104 -	140 -
33 最終調整・確認2	69 管体割れ・欠け修正1	105 -	141 -
34 試奏について	70 管体割れ・欠け修正2	106 -	142 -
35 前期授業内試験	71 後期授業内試験	107 -	143 -
36 前期まとめ	72 後期まとめ	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験	○				
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

金管修理講義 I

授業形態		講義		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	各金管楽器の構造を理解し各楽器に合った修理方法の理論を学ぶ。				
到達目標	金管楽器修理に関する方法や理論を理解し、実際の修理に役立てることを目標とする。				
教材	新しい楽器学と演奏法(ヤマハ株式会社) プリント教材				

年間授業計画

1 工具：鋸・鋸1	37 管楽器における研磨剤、研磨方法・接着剤、接着方法1	73 -	109 -
2 工具：鋸・鋸2	38 管楽器における研磨剤、研磨方法・接着剤、接着方法2	74 -	110 -
3 真鍮加工技術1-1	39 ハンダ付技術講義4-1	75 -	111 -
4 真鍮加工技術1-2	40 ハンダ付技術講義4-2	76 -	112 -
5 真鍮加工技術1-3	41 ハンダ付技術講義4-3	77 -	113 -
6 真鍮加工技術1-4	42 ハンダ付技術講義4-4	78 -	114 -
7 素材：金属基礎1	43 素材：鉄鋼材料・熱処理 1	79 -	115 -
8 素材：金属基礎2	44 素材：鉄鋼材料・熱処理 2	80 -	116 -
9 真鍮加工技術2-1	45 トランペット歴史、構造 1	81 -	117 -
10 真鍮加工技術2-2	46 確認テスト	82 -	118 -
11 真鍮加工技術2-3	47 トランペット歴史、構造 2	83 -	119 -
12 真鍮加工技術2-4	48 確認テスト	84 -	120 -
13 ハンダ付技術講義1-1	49 ホルン歴史、構造 1	85 -	121 -
14 ハンダ付技術講義1-2	50 確認テスト	86 -	122 -
15 ハンダ付技術講義1-3	51 ホルン歴史、構造 2	87 -	123 -
16 ハンダ付技術講義1-4	52 確認テスト	88 -	124 -
17 工具：ドライバー・ネジについて1	53 トロンボーン歴史、構造 1	89 -	125 -
18 工具：ドライバー・ネジについて2	54 確認テスト	90 -	126 -
19 素材：銅合金1	55 トロンボーン歴史、構造 2	91 -	127 -
20 素材：銅合金2	56 確認テスト	92 -	128 -
21 ハンダ付技術講義2-1	57 ユーフォニアム・チューバ歴史、構造 1	93 -	129 -
22 ハンダ付技術講義2-2	58 確認テスト	94 -	130 -
23 ハンダ付技術講義2-3	59 ユーフォニアム・チューバ歴史、構造 2	95 -	131 -
24 ハンダ付技術講義2-4	60 確認テスト	96 -	132 -
25 工具：工作機械1	61 管楽器専門用語 1	97 -	133 -
26 工具：工作機械2	62 確認テスト	98 -	134 -
27 素材：金銀・表面処理について	63 管楽器専門用語 2	99 -	135 -
28 素材：金銀・表面処理について	64 確認テスト	100 -	136 -
29 ハンダ付技術講義3-1	65 管楽器演奏者について	101 -	137 -
30 ハンダ付技術講義3-2	66 確認テスト	102 -	138 -
31 ハンダ付技術講義3-3	67 管楽器製作者について	103 -	139 -
32 ハンダ付技術講義3-4	68 確認テスト	104 -	140 -
33 工具：きさげ・その他工具加工1	69 作曲家について	105 -	141 -
34 工具：きさげ・その他工具加工2	70 確認テスト	106 -	142 -
35 まとめ1	71 まとめ2	107 -	143 -
36 確認テスト	72 確認テスト	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
実技試験						

金管修理講義Ⅱ

授業形態		講義		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容			
授業内容	各金管楽器の構造を理解し各楽器に合った修理方法の理論を学ぶ。				
到達目標	金管楽器修理に関する方法や理論を理解し、実際の修理に役立てることを目標とする。				
教材	新しい楽器学と演奏法(ヤマハ株式会社) プリント教材				
年間授業計画					
1	ロウ付技術講義1-1	37	管体穴あき修正技術講義2-7	73	－
2	ロウ付技術講義1-2	38	管体穴あき修正技術講義2-8	74	－
3	ロウ付技術講義1-3	39	管体穴あき修正技術講義2-9	75	－
4	ロウ付技術講義1-4	40	管体穴あき修正技術講義2-10	76	－
5	ロウ付技術講義1-5	41	ネジ加工技術講義1-1	77	－
6	ロウ付技術講義1-6	42	ネジ加工技術講義1-2	78	－
7	ロウ付技術講義1-7	43	ネジ加工技術講義1-3	79	－
8	ロウ付技術講義1-8	44	ネジ加工技術講義1-4	80	－
9	ロウ付技術講義1-9	45	ネジ加工技術講義1-5	81	－
10	ロウ付技術講義1-10	46	ネジ加工技術講義1-6	82	－
11	ロウ付技術講義2-1	47	ネジ加工技術講義1-7	83	－
12	ロウ付技術講義2-2	48	ネジ加工技術講義1-8	84	－
13	ロウ付技術講義2-3	49	ネジ加工技術講義1-9	85	－
14	ロウ付技術講義2-4	50	ネジ加工技術講義1-10	86	－
15	ロウ付技術講義2-5	51	ネジ加工技術講義2-1	87	－
16	ロウ付技術講義2-6	52	ネジ加工技術講義2-2	88	－
17	ロウ付技術講義2-7	53	ネジ加工技術講義2-3	89	－
18	ロウ付技術講義2-8	54	ネジ加工技術講義2-4	90	－
19	ロウ付技術講義2-9	55	ネジ加工技術講義2-5	91	－
20	ロウ付技術講義2-10	56	ネジ加工技術講義2-6	92	－
21	管体穴あき修正技術講義1-1	57	ネジ加工技術講義2-7	93	－
22	管体穴あき修正技術講義1-2	58	ネジ加工技術講義2-8	94	－
23	管体穴あき修正技術講義1-3	59	ネジ加工技術講義2-9	95	－
24	管体穴あき修正技術講義1-4	60	ネジ加工技術講義2-10	96	－
25	管体穴あき修正技術講義1-5	61	機械加工技術講義1	97	－
26	管体穴あき修正技術講義1-6	62	機械加工技術講義2	98	－
27	管体穴あき修正技術講義1-7	63	機械加工技術講義3	99	－
28	管体穴あき修正技術講義1-8	64	機械加工技術講義4	100	－
29	管体穴あき修正技術講義1-9	65	機械加工技術講義5	101	－
30	管体穴あき修正技術講義1-10	66	機械加工技術講義6	102	－
31	管体穴あき修正技術講義2-1	67	機械加工技術講義7	103	－
32	管体穴あき修正技術講義2-2	68	機械加工技術講義8	104	－
33	管体穴あき修正技術講義2-3	69	機械加工技術講義9	105	－
34	管体穴あき修正技術講義2-4	70	機械加工技術講義10	106	－
35	管体穴あき修正技術講義2-5	71	まとめ2	107	－
36	管体穴あき修正技術講義2-6	72	確認テスト	108	－
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験	○				
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

リペアゼミⅠ

授業形態		講義		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	各修理で使用する工具・大型機械の特性を理解し、グループで講義を行い基礎技術を身につける。				
到達目標	楽器修理専用工具や大型機械の知識及び使用技術を習得する事を目標とする。				
教材	プリント教材 各種工具・大型機械				

年間授業計画

1 凹み修理工具加工1	37 ユーフォニアム・テューバ凹み修正2	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 凹み修理工具加工2	39 ユーフォニアム・テューバ凹み修正3	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 トランペット凹み修正1	41 ユーフォニアム・テューバ凹み修正4	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 トランペット凹み修正2	43 ユーフォニアム・テューバ凹み修正5	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 トランペット凹み修正3	45 サックス凹み修正1	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 トランペット凹み修正4	47 サックス凹み修正2	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 トランペット凹み修正5	49 サックス凹み修正3	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 トロンボーン凹み修正1	51 サックス凹み修正4	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 トロンボーン凹み修正2	53 フルート凹み修正1	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 トロンボーン凹み修正3	55 フルート凹み修正2	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 トロンボーン凹み修正4	57 フルート凹み修正3	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 トロンボーン凹み修正5	59 フルート凹み修正4	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 ホルン凹み修正1	61 抜差管凹み修正1	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 ホルン凹み修正2	63 抜差管凹み修正2	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 ホルン凹み修正3	65 抜差管凹み修正3	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 ホルン凹み修正4	67 抜差管凹み修正4	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 ホルン凹み修正5	69 まとめ	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 ユーフォニアム・テューバ凹み修正1	71 テスト	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～85	B評価 84～75	C評価 74～65	D評価 64～	E評価 未受験
筆記試験						
実技試験	○					

成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

リペアゼミⅡ

授業形態		講義		年間授業時間数	72時間	
実務経験のある教員		実務内容				
授業内容	グループで講義・実習を行い、楽器修理専用工具や大型機械の知識及び使用技術を学ぶ事を目的とする。					
到達目標	各修理で使用する工具・大型機械の特性を理解し基礎技術を身につける。					
教材	プリント教材 各種工具・大型機械					
年間授業計画						
1 ピストン調整1		37 抜差管調整1	73 -	109 -		
2 "		38 "	74 -	110 -		
3 ピストン調整2		39 抜差管調整2	75 -	111 -		
4 "		40 "	76 -	112 -		
5 ピストン調整3		41 抜差管調整3	77 -	113 -		
6 "		42 "	78 -	114 -		
7 ピストン調整4		43 抜差管調整4	79 -	115 -		
8 "		44 "	80 -	116 -		
9 ピストン調整5		45 抜差管調整5	81 -	117 -		
10 "		46 "	82 -	118 -		
11 ピストン調整6		47 抜差管調整6	83 -	119 -		
12 "		48 "	84 -	120 -		
13 ピストン調整7		49 抜差管調整7	85 -	121 -		
14 "		50 "	86 -	122 -		
15 まとめ		51 まとめ	87 -	123 -		
16 "		52 "	88 -	124 -		
17 テスト		53 テスト	89 -	125 -		
18 "		54 "	90 -	126 -		
19 ロータリー調整1		55 スライド調整1	91 -	127 -		
20 "		56 "	92 -	128 -		
21 ロータリー調整2		57 スライド調整2	93 -	129 -		
22 "		58 "	94 -	130 -		
23 ロータリー調整3		59 スライド調整3	95 -	131 -		
24 "		60 "	96 -	132 -		
25 ロータリー調整4		61 スライド調整4	97 -	133 -		
26 "		62 "	98 -	134 -		
27 ロータリー調整5		63 スライド調整5	99 -	135 -		
28 "		64 "	100 -	136 -		
29 ロータリー調整6		65 スライド調整6	101 -	137 -		
30 "		66 "	102 -	138 -		
31 ロータリー調整7		67 スライド調整7	103 -	139 -		
32 "		68 "	104 -	140 -		
33 まとめ		69 まとめ	105 -	141 -		
34 "		70 "	106 -	142 -		
35 テスト		71 テスト	107 -	143 -		
36 "		72 "	108 -	144 -		
成績評価方法						
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

実践講義						
授業形態		講義		年間授業時間数	36時間	
実務経験のある教員			実務内容			
授業内容	修理以外の業務について知識を習得すると共に音楽業界への理解を深める。					
到達目標	音楽業界についての知識を身につけ仕事現場に役立てることを目標とする。					
教材	プリント教材					
年間授業計画						
1	授業概要説明：今後の授業の説明、リベアラーの役割を改めて考える	37	－	73	－	
2	修理受付：修理受付時の注意点、修理台帳について解説	38	－	74	－	
3	〃	39	－	75	－	
4	見積もりについて：見積もりの手順、注意点解説、修理価格について解説	40	－	76	－	
5	修理価格表作成：一般的な修理価格を調べ独自の価格表を作成	41	－	77	－	
6	〃	42	－	78	－	
7	〃	43	－	79	－	
8	〃	44	－	80	－	
9	見積もり実践：作成した修理価格表に基づき、見積もりを行う	45	－	81	－	
10	〃	46	－	82	－	
11	修理受付・見積もりまとめ	47	－	83	－	
12	流通ルート解説：楽器の流通に関して説明、楽器からの課題として販売と取引のイメージを解く	48	－	84	－	
13	流通ルート紹介：販売と取引のイメージの課題、販売の主力メーカーを紹介すること。	49	－	85	－	
14	〃	50	－	86	－	
15	〃	51	－	87	－	
16	〃	52	－	88	－	
17	〃	53	－	89	－	
18	〃	54	－	90	－	
19	〃	55	－	91	－	
20	〃	56	－	92	－	
21	流通ルートまとめ	57	－	93	－	
22	木管楽器：商品知識を深める	58	－	94	－	
23	〃	59	－	95	－	
24	〃	60	－	96	－	
25	木管アクセサリ：商品知識を深める	61	－	97	－	
26	〃	62	－	98	－	
27	〃	63	－	99	－	
28	〃	64	－	100	－	
29	金管楽器：商品知識を深める	65	－	101	－	
30	〃	66	－	102	－	
31	〃	67	－	103	－	
32	金管アクセサリ：商品知識を深める	68	－	104	－	
33	〃	69	－	105	－	
34	〃	70	－	106	－	
35	〃	71	－	107	－	
36	まとめ	72	－	108	－	
成績評価方法						
評価対象		出席率よりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
実技試験						

管楽器知識

授業形態		講義		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	各自で楽器メーカーやプレイヤーについて調べ、またそれを発表することで知識を身につけると共にプレゼンテーション能力を養う。				
到達目標	各楽器メーカーやプレイヤーについての知識を身につけ仕事現場に役立てる事を目的とする。				
教材	プリント教材				

年間授業計画

1	フルート：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	37	－	73	－	109	－
2	テスト	38	－	74	－	110	－
3	テスト回答・解説	39	－	75	－	111	－
4	オーボエ：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	40	－	76	－	112	－
5	テスト	41	－	77	－	113	－
6	テスト回答・解説	42	－	78	－	114	－
7	ファゴット：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	43	－	79	－	115	－
8	テスト	44	－	80	－	116	－
9	テスト回答・解説	45	－	81	－	117	－
10	クラリネット：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	46	－	82	－	118	－
11	テスト	47	－	83	－	119	－
12	テスト回答・解説	48	－	84	－	120	－
13	サクソフーン：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	49	－	85	－	121	－
14	テスト	50	－	86	－	122	－
15	テスト回答・解説	51	－	87	－	123	－
16	トランペット：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	52	－	88	－	124	－
17	テスト	53	－	89	－	125	－
18	テスト回答・解説	54	－	90	－	126	－
19	ホルン：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	55	－	91	－	127	－
20	テスト	56	－	92	－	128	－
21	テスト回答・解説	57	－	93	－	129	－
22	トロンボーン：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	58	－	94	－	130	－
23	テスト	59	－	95	－	131	－
24	テスト回答・解説	60	－	96	－	132	－
25	ユーフォニアム：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	61	－	97	－	133	－
26	テスト	62	－	98	－	134	－
27	テスト回答・解説	63	－	99	－	135	－
28	チューバ：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	64	－	100	－	136	－
29	テスト	65	－	101	－	137	－
30	テスト回答・解説	66	－	102	－	138	－
31	弦楽器：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	67	－	103	－	139	－
32	テスト	68	－	104	－	140	－
33	テスト回答・解説	69	－	105	－	141	－
34	打楽器：楽器・主要メーカー・プロ奏者についての知識を深める	70	－	106	－	142	－
35	テスト	71	－	107	－	143	－
36	テスト回答・解説	72	－	108	－	144	－

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
実技試験						

実践指揮法 I

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		○	実務内容 吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業		
授業内容		指揮者として実際にバンドの指揮を行い、拍子の振り分けや強弱の指示が明確に出来るようにする。			
到達目標		基本的な指揮法や知識を身につけバンド指導能力を養うことを目的とする。			
教材		各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）			
年間授業計画					
1 指揮の基本姿勢		37 -	73 -	109 -	
2 指揮棒の持ち方		38 -	74 -	110 -	
3 スコアの見方1		39 -	75 -	111 -	
4 スコアの見方2と2拍子の基本図形		40 -	76 -	112 -	
5 3拍子の基本図形		41 -	77 -	113 -	
6 4拍子の基本図形		42 -	78 -	114 -	
7 2拍子の作品で実習		43 -	79 -	115 -	
8 2拍子の作品で実習		44 -	80 -	116 -	
9 3拍子の作品で実習		45 -	81 -	117 -	
10 3拍子の作品で実習		46 -	82 -	118 -	
11 4拍子の作品で実習		47 -	83 -	119 -	
12 4拍子の作品で実習		48 -	84 -	120 -	
13 定期演奏会の作品を使用して実習		49 -	85 -	121 -	
14 定期演奏会の作品を使用して実習		50 -	86 -	122 -	
15 定期演奏会の作品を使用して実習		51 -	87 -	123 -	
16 定期演奏会の作品を使用して実習		52 -	88 -	124 -	
17 定期演奏会の作品を使用して実習		53 -	89 -	125 -	
18 定期演奏会の作品を使用して実習		54 -	90 -	126 -	
19 定期演奏会の作品を使用して実習		55 -	91 -	127 -	
20 定期演奏会の作品を使用して実習		56 -	92 -	128 -	
21 定期演奏会の作品を使用して実習		57 -	93 -	129 -	
22 定期演奏会の作品を使用して実習		58 -	94 -	130 -	
23 複合拍子の指揮法		59 -	95 -	131 -	
24 混合拍子の指揮法		60 -	96 -	132 -	
25 変拍子の指揮法1		61 -	97 -	133 -	
26 変拍子の指揮法2		62 -	98 -	134 -	
27 変拍子の指揮法3		63 -	99 -	135 -	
28 フィルマータの指揮1		64 -	100 -	136 -	
29 フィルマータの指揮2		65 -	101 -	137 -	
30 変拍子の指揮法1		66 -	102 -	138 -	
31 定期演奏会の作品を使用して実習		67 -	103 -	139 -	
32 定期演奏会の作品を使用して実習		68 -	104 -	140 -	
33 定期演奏会の作品を使用して実習		69 -	105 -	141 -	
34 定期演奏会の作品を使用して実習		70 -	106 -	142 -	
35 定期演奏会の作品を使用して実習		71 -	107 -	143 -	
36 定期演奏会の作品を使用して実習		72 -	108 -	144 -	
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

実践指揮法Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		○	実務内容 吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業		
授業内容		指揮者として実際にバンドの指揮を振り、表現方法の指示を明確に出来るようにする。			
到達目標		実践指揮法Ⅰで学んだ事を応用し、より高度な指揮法を身に付ける事を目標とする。			
教材		各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）			
年間授業計画					
1 指揮の基本姿勢		37 -	73 -	109 -	
2 指揮棒の持ち方		38 -	74 -	110 -	
3 スコアの見方1		39 -	75 -	111 -	
4 スコアの見方2と2拍子の基本図形		40 -	76 -	112 -	
5 3拍子の基本図形		41 -	77 -	113 -	
6 4拍子の基本図形		42 -	78 -	114 -	
7 2拍子の作品で実習		43 -	79 -	115 -	
8 2拍子の作品で実習		44 -	80 -	116 -	
9 3拍子の作品で実習		45 -	81 -	117 -	
10 3拍子の作品で実習		46 -	82 -	118 -	
11 4拍子の作品で実習		47 -	83 -	119 -	
12 4拍子の作品で実習		48 -	84 -	120 -	
13 定期演奏会の作品を使用して実習		49 -	85 -	121 -	
14 定期演奏会の作品を使用して実習		50 -	86 -	122 -	
15 定期演奏会の作品を使用して実習		51 -	87 -	123 -	
16 定期演奏会の作品を使用して実習		52 -	88 -	124 -	
17 定期演奏会の作品を使用して実習		53 -	89 -	125 -	
18 定期演奏会の作品を使用して実習		54 -	90 -	126 -	
19 定期演奏会の作品を使用して実習		55 -	91 -	127 -	
20 定期演奏会の作品を使用して実習		56 -	92 -	128 -	
21 定期演奏会の作品を使用して実習		57 -	93 -	129 -	
22 定期演奏会の作品を使用して実習		58 -	94 -	130 -	
23 複合拍子の指揮法		59 -	95 -	131 -	
24 混合拍子の指揮法		60 -	96 -	132 -	
25 変拍子の指揮法1		61 -	97 -	133 -	
26 変拍子の指揮法2		62 -	98 -	134 -	
27 変拍子の指揮法3		63 -	99 -	135 -	
28 フィルマータの指揮1		64 -	100 -	136 -	
29 フィルマータの指揮2		65 -	101 -	137 -	
30 変拍子の指揮法1		66 -	102 -	138 -	
31 定期演奏会の作品を使用して実習		67 -	103 -	139 -	
32 定期演奏会の作品を使用して実習		68 -	104 -	140 -	
33 定期演奏会の作品を使用して実習		69 -	105 -	141 -	
34 定期演奏会の作品を使用して実習		70 -	106 -	142 -	
35 定期演奏会の作品を使用して実習		71 -	107 -	143 -	
36 定期演奏会の作品を使用して実習		72 -	108 -	144 -	
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

吹奏楽基礎演習Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の演奏経験のある教員による授業		
授業内容	コーラルやコンコーネを使用し、ハーモニーやバランスを自分で判断できるようにする。また合奏内での自分の役割を瞬時に判断できるようにする。				
到達目標	同調の楽器だけでなく様々な調の楽器とのユニゾンの合わせ方やハーモニーの鳴らし方、バランスの取り方等を習得し基本的な合奏能力の向上を目標とする。				
教材	吹奏楽のためのコンコーネ 50(ティーダ出版)・合唱曲集				

年間授業計画

1	スケール(以下S)とデンフラージュ(以下D)	37 -	73 -	109 -
2	SとD	38 -	74 -	110 -
3	SとD	39 -	75 -	111 -
4	Sとハーモニー(以下H)とD	40 -	76 -	112 -
5	SとHとD	41 -	77 -	113 -
6	SとHとD	42 -	78 -	114 -
7	SとHとD	43 -	79 -	115 -
8	SとHとD	44 -	80 -	116 -
9	SとHとD	45 -	81 -	117 -
10	SとHとD	46 -	82 -	118 -
11	SとHとD	47 -	83 -	119 -
12	SとHとD	48 -	84 -	120 -
13	SとHとD	49 -	85 -	121 -
14	SとHとD	50 -	86 -	122 -
15	SとHとD	51 -	87 -	123 -
16	SとHとD	52 -	88 -	124 -
17	SとHとD	53 -	89 -	125 -
18	SとHとD	54 -	90 -	126 -
19	SとHとD	55 -	91 -	127 -
20	SとHとD	56 -	92 -	128 -
21	SとHとD	57 -	93 -	129 -
22	SとHとD	58 -	94 -	130 -
23	SとHとD	59 -	95 -	131 -
24	SとHとD	60 -	96 -	132 -
25	SとHとD	61 -	97 -	133 -
26	SとHとD	62 -	98 -	134 -
27	SとHとD	63 -	99 -	135 -
28	SとHとD	64 -	100 -	136 -
29	SとHとD	65 -	101 -	137 -
30	SとHとD	66 -	102 -	138 -
31	SとHとD	67 -	103 -	139 -
32	SとHとD	68 -	104 -	140 -
33	SとHとD	69 -	105 -	141 -
34	SとHとD	70 -	106 -	142 -
35	SとHとD	71 -	107 -	143 -
36	SとHとD	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

吹奏楽基礎演習Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の演奏経験のある教員による授業		
授業内容	コーラルやコンコーネを使用し、ハーモニーやバランスを自分で判断できるようにする。また合奏内での自分の役割を瞬時に判断できるようにする。				
到達目標	同調の楽器だけでなく様々な調の楽器とのユニゾンの合わせ方やハーモニーの鳴らし方、バランスの取り方等を習得し基本的な合奏能力の向上を目標とする。				
教材	吹奏楽のためのコンコーネ 50(ティーダ出版)・合唱曲集				

年間授業計画

1	スケール(以下S)とデンフラージュ(以下D)	37 -	73 -	109 -
2	SとD	38 -	74 -	110 -
3	SとD	39 -	75 -	111 -
4	Sとハーモニー(以下H)とD	40 -	76 -	112 -
5	SとHとD	41 -	77 -	113 -
6	SとHとD	42 -	78 -	114 -
7	SとHとD	43 -	79 -	115 -
8	SとHとD	44 -	80 -	116 -
9	SとHとD	45 -	81 -	117 -
10	SとHとD	46 -	82 -	118 -
11	SとHとD	47 -	83 -	119 -
12	SとHとD	48 -	84 -	120 -
13	SとHとD	49 -	85 -	121 -
14	SとHとD	50 -	86 -	122 -
15	SとHとD	51 -	87 -	123 -
16	SとHとD	52 -	88 -	124 -
17	SとHとD	53 -	89 -	125 -
18	SとHとD	54 -	90 -	126 -
19	SとHとD	55 -	91 -	127 -
20	SとHとD	56 -	92 -	128 -
21	SとHとD	57 -	93 -	129 -
22	SとHとD	58 -	94 -	130 -
23	SとHとD	59 -	95 -	131 -
24	SとHとD	60 -	96 -	132 -
25	SとHとD	61 -	97 -	133 -
26	SとHとD	62 -	98 -	134 -
27	SとHとD	63 -	99 -	135 -
28	SとHとD	64 -	100 -	136 -
29	SとHとD	65 -	101 -	137 -
30	SとHとD	66 -	102 -	138 -
31	SとHとD	67 -	103 -	139 -
32	SとHとD	68 -	104 -	140 -
33	SとHとD	69 -	105 -	141 -
34	SとHとD	70 -	106 -	142 -
35	SとHとD	71 -	107 -	143 -
36	SとHとD	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

吹奏楽演習Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管楽アンサンブル等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業		
授業内容	ジャンルを問わず様々な楽曲を演奏し、一つのバンドとしてまとまった演奏を各自考えて行えるようにする。				
到達目標	合奏を通じて多様なジャンルの楽曲について学び理解を深める。多様なジャンルの合奏能力の向上を目的とする。				
教材	各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）				

年間授業計画

1 合奏(定期演奏会)	37 合奏(定期演奏会)	73 コラールと前回の作品を使用した合奏	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 合奏(定期演奏会)	40 各国のマーチと初見合奏	76 合奏(定期演奏会)	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 合奏(定期演奏会)	43 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	79 合奏(定期演奏会)	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 合奏(定期演奏会)	46 各国のマーチと初見合奏	82 合奏(定期演奏会)	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 合奏(定期演奏会)	49 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	85 合奏(定期演奏会)	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 合奏(定期演奏会)	52 各国のマーチと初見合奏	88 合奏(定期演奏会)	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 合奏(定期演奏会)	55 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	91 合奏(定期演奏会)	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 合奏(定期演奏会)	58 コラールと初見合奏	94 合奏(定期演奏会)	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 合奏(定期演奏会)	61 コラールと前回の作品を使用した合奏	97 合奏(定期演奏会)	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 合奏(定期演奏会)	64 コラールと初見合奏	100 合奏(定期演奏会)	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 合奏(定期演奏会)	67 コラールと前回の作品を使用した合奏	103 合奏(定期演奏会)	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 合奏(定期演奏会)	70 コラールと初見合奏	106 合奏(定期演奏会)	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率と定期演奏会(当日・集中練習と合宿)の出席率の合算によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			
実技試験					

吹奏楽演習Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管楽アンサンブル等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業		
授業内容	ジャンルを問わず様々な楽曲を演奏し、一つのバンドとしてまとまった演奏を各自考えて行えるようにする。				
到達目標	合奏を通じて多様なジャンルの楽曲について学び理解を深める。多様なジャンルの合奏能力の向上を目的とする。				
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)				
年間授業計画					
1 合奏(定期演奏会)	37 合奏(定期演奏会)	73 コラールと前回の作品を使用した合奏	109 -		
2 "	38 "	74 "	110 -		
3 "	39 "	75 "	111 -		
4 合奏(定期演奏会)	40 各国のマーチと初見合奏	76 合奏(定期演奏会)	112 -		
5 "	41 "	77 "	113 -		
6 "	42 "	78 "	114 -		
7 合奏(定期演奏会)	43 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	79 合奏(定期演奏会)	115 -		
8 "	44 "	80 "	116 -		
9 "	45 "	81 "	117 -		
10 合奏(定期演奏会)	46 各国のマーチと初見合奏	82 合奏(定期演奏会)	118 -		
11 "	47 "	83 "	119 -		
12 "	48 "	84 "	120 -		
13 合奏(定期演奏会)	49 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	85 合奏(定期演奏会)	121 -		
14 "	50 "	86 "	122 -		
15 "	51 "	87 "	123 -		
16 合奏(定期演奏会)	52 各国のマーチと初見合奏	88 合奏(定期演奏会)	124 -		
17 "	53 "	89 "	125 -		
18 "	54 "	90 "	126 -		
19 合奏(定期演奏会)	55 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	91 合奏(定期演奏会)	127 -		
20 "	56 "	92 "	128 -		
21 "	57 "	93 "	129 -		
22 合奏(定期演奏会)	58 コラールと初見合奏	94 合奏(定期演奏会)	130 -		
23 "	59 "	95 "	131 -		
24 "	60 "	96 "	132 -		
25 合奏(定期演奏会)	61 コラールと前回の作品を使用した合奏	97 合奏(定期演奏会)	133 -		
26 "	62 "	98 "	134 -		
27 "	63 "	99 "	135 -		
28 合奏(定期演奏会)	64 コラールと初見合奏	100 合奏(定期演奏会)	136 -		
29 "	65 "	101 "	137 -		
30 "	66 "	102 "	138 -		
31 合奏(定期演奏会)	67 コラールと前回の作品を使用した合奏	103 合奏(定期演奏会)	139 -		
32 "	68 "	104 "	140 -		
33 "	69 "	105 "	141 -		
34 合奏(定期演奏会)	70 コラールと初見合奏	106 合奏(定期演奏会)	142 -		
35 "	71 "	107 "	143 -		
36 "	72 "	108 "	144 -		
成績評価方法					
評価対象		出席率と定期演奏会(当日・集中練習と合宿)の出席率の合算によりAからEの評価とする			
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

吹奏楽指導法Ⅰ

授業形態		実習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	中高等学校や大学で吹奏楽・管弦楽等の指導者としての実務経験のある教員による授		
授業内容	曲による演奏法の違いを実践し、異なった時代による演奏様式などの指導法を身につける。				
到達目標	合奏を通じて吹奏楽基礎演習や吹奏楽演習で学んでいる内容を、指導者として各パートに指示できる指導法を身につける事を目標。				
教材	各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）				

年間授業計画

1 合奏内での個別指導	37 合奏内での個別指導	73 合奏内での個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする			
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

吹奏楽指導法Ⅱ

授業形態		実習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	中高等学校や大学で吹奏楽・管弦楽等の指導者としての実務経験のある教員による授		
授業内容	曲による演奏法の違いを実践し、異なった時代による演奏様式などの指導法を身につける。				
到達目標	合奏を通じて吹奏楽基礎演習や吹奏楽演習で学んでいる内容を、指導者として各パートに指示できる指導法を身につける事を目標。				
教材	各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）				

年間授業計画

1 合奏内での個別指導	37 合奏内での個別指導	73 合奏内での個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする			
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

演奏実習 I（管楽器リペアコース）

授業形態		実習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容			
授業内容	教則本などを使用し、演奏技術の向上や表現方法を身につける。				
到達目標	各楽器の特性を理解し正しい奏法を身につけ、演奏技術向上の基盤を作ること为目标とする。				
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)				

年間授業計画

1	グループ指導・演習	37	グループ指導・演習	73	-	109	-
2	"	38	"	74	-	110	-
3	"	39	"	75	-	111	-
4	"	40	"	76	-	112	-
5	"	41	"	77	-	113	-
6	"	42	"	78	-	114	-
7	"	43	"	79	-	115	-
8	"	44	"	80	-	116	-
9	"	45	"	81	-	117	-
10	"	46	"	82	-	118	-
11	"	47	"	83	-	119	-
12	"	48	"	84	-	120	-
13	"	49	"	85	-	121	-
14	"	50	"	86	-	122	-
15	"	51	"	87	-	123	-
16	"	52	"	88	-	124	-
17	"	53	"	89	-	125	-
18	"	54	"	90	-	126	-
19	"	55	"	91	-	127	-
20	"	56	"	92	-	128	-
21	"	57	"	93	-	129	-
22	"	58	"	94	-	130	-
23	"	59	"	95	-	131	-
24	"	60	"	96	-	132	-
25	"	61	"	97	-	133	-
26	"	62	"	98	-	134	-
27	"	63	"	99	-	135	-
28	"	64	"	100	-	136	-
29	"	65	"	101	-	137	-
30	"	66	"	102	-	138	-
31	"	67	"	103	-	139	-
32	"	68	"	104	-	140	-
33	"	69	"	105	-	141	-
34	"	70	"	106	-	142	-
35	"	71	"	107	-	143	-
36	"	72	"	108	-	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

演奏実習Ⅱ（管楽器リペアコース）

授業形態		実習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	演奏技術向上と様々な練習方法を身につける。				
到達目標	演奏実習Ⅰで学んだ内容を応用・発展させ更に高いレベルの演奏技術を身に着ける事を目標とする。				
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)				

年間授業計画

1	グループ指導・演習	37	グループ指導・演習	73	-	109	-
2	"	38	"	74	-	110	-
3	"	39	"	75	-	111	-
4	"	40	"	76	-	112	-
5	"	41	"	77	-	113	-
6	"	42	"	78	-	114	-
7	"	43	"	79	-	115	-
8	"	44	"	80	-	116	-
9	"	45	"	81	-	117	-
10	"	46	"	82	-	118	-
11	"	47	"	83	-	119	-
12	"	48	"	84	-	120	-
13	"	49	"	85	-	121	-
14	"	50	"	86	-	122	-
15	"	51	"	87	-	123	-
16	"	52	"	88	-	124	-
17	"	53	"	89	-	125	-
18	"	54	"	90	-	126	-
19	"	55	"	91	-	127	-
20	"	56	"	92	-	128	-
21	"	57	"	93	-	129	-
22	"	58	"	94	-	130	-
23	"	59	"	95	-	131	-
24	"	60	"	96	-	132	-
25	"	61	"	97	-	133	-
26	"	62	"	98	-	134	-
27	"	63	"	99	-	135	-
28	"	64	"	100	-	136	-
29	"	65	"	101	-	137	-
30	"	66	"	102	-	138	-
31	"	67	"	103	-	139	-
32	"	68	"	104	-	140	-
33	"	69	"	105	-	141	-
34	"	70	"	106	-	142	-
35	"	71	"	107	-	143	-
36	"	72	"	108	-	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

デイリートレーニングⅠ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	さまざまなバリエーションで音階練習をおこない、演奏するための基礎体力向上をはかる。				
到達目標	基礎練習を毎日行い演奏するための体力を身につける事を目的とする。				
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)				

年間授業計画

1 基礎練習	37 基礎練習	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 "	43 "	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 "	45 "	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 "	49 "	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 "	51 "	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 "	53 "	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 "	61 "	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 "	63 "	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 "	67 "	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 "	69 "	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 "	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

デイリートレーニングⅡ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	さまざまなバリエーションで音階練習をおこない、演奏するための基礎体力向上をはかる。				
到達目標	基礎練習を毎日行い演奏するための体力を身につける事を目的とする。				
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)				

年間授業計画

1 基礎練習	37 基礎練習	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 "	43 "	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 "	45 "	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 "	49 "	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 "	51 "	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 "	53 "	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 "	61 "	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 "	63 "	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 "	67 "	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 "	69 "	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 "	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

クラリネット修理Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容	オーバーホール(全パーツ交換及び調整)を行う。随時個別指導。				
到達目標	クラリネットの修理技術を身につけ、さらには技術の向上を目的とする。				
教材	実習用楽器				

年間授業計画

1	バネ掛け作成	37	〃	73	-	109	-
2	〃	38	〃	74	-	110	-
3	〃	39	上下管リングキー連動調整	75	-	111	-
4	〃	40	〃	76	-	112	-
5	クラリネット分解組立	41	〃	77	-	113	-
6	〃	42	〃	78	-	114	-
7	〃	43	LowF/Cキー E/Bキー連動調整	79	-	115	-
8	〃	44	〃	80	-	116	-
9	タンポ交換・調整	45	〃	81	-	117	-
10	〃	46	〃	82	-	118	-
11	〃	47	キョコルク交換・開き調整②	83	-	119	-
12	〃	48	〃	84	-	120	-
13	〃	49	〃	85	-	121	-
14	〃	50	〃	86	-	122	-
15	〃	51	〃	87	-	123	-
16	〃	52	〃	88	-	124	-
17	〃	53	〃	89	-	125	-
18	〃	54	〃	90	-	126	-
19	〃	55	ガタ・アソビ調整	91	-	127	-
20	〃	56	〃	92	-	128	-
21	〃	57	〃	93	-	129	-
22	〃	58	〃	94	-	130	-
23	〃	59	ジョイントコルク交換	95	-	131	-
24	〃	60	〃	96	-	132	-
25	〃	61	〃	97	-	133	-
26	〃	62	〃	98	-	134	-
27	リングキー高さ調整(キー曲げ修正について)	63	〃	99	-	135	-
28	〃	64	〃	100	-	136	-
29	キョコルク交換・開き調整①	65	試奏、レジスターキータンポ	101	-	137	-
30	〃	66	〃	102	-	138	-
31	〃	67	最終調整・確認	103	-	139	-
32	〃	68	〃	104	-	140	-
33	〃	69	授業内試験	105	-	141	-
34	〃	70	〃	106	-	142	-
35	〃	71	まとめ	107	-	143	-
36	〃	72	〃	108	-	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	(出席率) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		(実技試験) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～及び未受検
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

フルート修理Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容	オーバーホール(全パーツ交換及び調整)を行う。随時個別指導。				
到達目標	フルートの修理技術を身につけ、さらには技術の向上を目標とする。				
教材	実習用楽器				
年間授業計画					
1 フルート分解組立	37 連動調整	73 -	109 -		
2 "	38 "	74 -	110 -		
3 タンポ交換・調整	39 "	75 -	111 -		
4 "	40 "	76 -	112 -		
5 "	41 "	77 -	113 -		
6 "	42 "	78 -	114 -		
7 "	43 "	79 -	115 -		
8 "	44 "	80 -	116 -		
9 "	45 "	81 -	117 -		
10 "	46 "	82 -	118 -		
11 "	47 "	83 -	119 -		
12 "	48 "	84 -	120 -		
13 "	49 "	85 -	121 -		
14 "	50 "	86 -	122 -		
15 "	51 キーフエルト・コルク交換調整	87 -	123 -		
16 "	52 "	88 -	124 -		
17 "	53 "	89 -	125 -		
18 "	54 "	90 -	126 -		
19 "	55 "	91 -	127 -		
20 "	56 "	92 -	128 -		
21 "	57 "	93 -	129 -		
22 "	58 "	94 -	130 -		
23 "	59 "	95 -	131 -		
24 "	60 "	96 -	132 -		
25 タンポ交換・調整見直し	61 "	97 -	133 -		
26 "	62 "	98 -	134 -		
27 "	63 ヘッドコルク交換・調整	99 -	135 -		
28 "	64 "	100 -	136 -		
29 "	65 試奏	101 -	137 -		
30 "	66 "	102 -	138 -		
31 "	67 最終調整	103 -	139 -		
32 "	68 "	104 -	140 -		
33 "	69 授業内試験	105 -	141 -		
34 "	70 "	106 -	142 -		
35 "	71 フルートまとめ	107 -	143 -		
36 "	72 "	108 -	144 -		
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○	(出席率) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験		(実技試験) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 検及び未受
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

サックス修理Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数		72時間	
実務経験のある教員		○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業			
授業内容		オーバーホール(全パーツ交換及び調整)を行う。随時個別指導。					
到達目標		サックスの修理技術を身につけ、さらには技術の向上を目標とする。					
教材		実習用楽器					
年間授業計画							
1 サックス分解組立		37 連動調整		73 -		109 -	
2 "		38 "		74 -		110 -	
3 タンポ交換・調整		39 "		75 -		111 -	
4 "		40 "		76 -		112 -	
5 "		41 "		77 -		113 -	
6 "		42 "		78 -		114 -	
7 "		43 "		79 -		115 -	
8 "		44 "		80 -		116 -	
9 "		45 開き調整		81 -		117 -	
10 "		46 "		82 -		118 -	
11 "		47 "		83 -		119 -	
12 "		48 "		84 -		120 -	
13 "		49 "		85 -		121 -	
14 "		50 "		86 -		122 -	
15 "		51 "		87 -		123 -	
16 "		52 "		88 -		124 -	
17 "		53 ガタ・アソビ調整		89 -		125 -	
18 "		54 "		90 -		126 -	
19 "		55 "		91 -		127 -	
20 "		56 "		92 -		128 -	
21 "		57 "		93 -		129 -	
22 "		58 "		94 -		130 -	
23 "		59 ネックコルク交換		95 -		131 -	
24 "		60 "		96 -		132 -	
25 タンポ交換・調整見直し		61 "		97 -		133 -	
26 "		62 "		98 -		134 -	
27 "		63 最終調整		99 -		135 -	
28 "		64 "		100 -		136 -	
29 "		65 "		101 -		137 -	
30 "		66 "		102 -		138 -	
31 "		67 試奏		103 -		139 -	
32 "		68 "		104 -		140 -	
33 "		69 授業内試験		105 -		141 -	
34 "		70 "		106 -		142 -	
35 "		71 サックスまとめ		107 -		143 -	
36 "		72 "		108 -		144 -	
成績評価方法							
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	(出席率) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～	
筆記試験		(実技試験) A評価 100～85	B評価 84～75	C評価 74～65	D評価 64～	E評価 未受験	
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない					

木管応用修理Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容	各自で修理内容に適した修理方法を判断しそれを行う。				
到達目標	各楽器(クラリネット・フルート・サクソ)の修理技術を応用し、特殊な修理内容に対応する技術を身につける事を目標とする。				
教材	実習用楽器				

年間授業計画

1	ピッコロ分解組立	37	ファゴット分解組立	73	-	109	-
2	"	38	"	74	-	110	-
3	タンポ交換	39	タンポ交換	75	-	111	-
4	"	40	"	76	-	112	-
5	"	41	"	77	-	113	-
6	"	42	"	78	-	114	-
7	"	43	"	79	-	115	-
8	"	44	"	80	-	116	-
9	連動調整	45	連動調整	81	-	117	-
10	"	46	"	82	-	118	-
11	"	47	"	83	-	119	-
12	"	48	"	84	-	120	-
13	開き調整	49	開き調整	85	-	121	-
14	"	50	"	86	-	122	-
15	"	51	"	87	-	123	-
16	"	52	"	88	-	124	-
17	試奏	53	試奏	89	-	125	-
18	"	54	"	90	-	126	-
19	オーボエ分解組立	55	バネ・ノックピン交換	91	-	127	-
20	"	56	"	92	-	128	-
21	タンポ交換	57	"	93	-	129	-
22	"	58	"	94	-	130	-
23	"	59	キ可動不良修正	95	-	131	-
24	"	60	"	96	-	132	-
25	"	61	"	97	-	133	-
26	"	62	"	98	-	134	-
27	連動調整	63	"	99	-	135	-
28	"	64	"	100	-	136	-
29	"	65	管体割れ・欠け修正	101	-	137	-
30	"	66	"	102	-	138	-
31	開き調整	67	"	103	-	139	-
32	"	68	"	104	-	140	-
33	"	69	授業内試験	105	-	141	-
34	"	70	"	106	-	142	-
35	試奏	71	まとめ	107	-	143	-
36	"	72	"	108	-	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率及び筆記試験と実技試験の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	(出席・筆記) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		(実技試験) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～及び未受検
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

金管修理(溶接)Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		○	実務内容 管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容		各楽器、様々な箇所の溶接を実習し注意点や方法を学ぶ。			
到達目標		溶接の技術を身につけ、さらには技術の向上を目標とする。			
教材		実習用楽器			
年間授業計画					
1 真鍮板加工1		37 ホルンハンダ付4	73 -	109 -	
2 //		38 //	74 -	110 -	
3 真鍮板加工2		39 ホルンハンダ付5	75 -	111 -	
4 //		40 //	76 -	112 -	
5 真鍮板加工3		41 ユーフォニアム・テューバハンダ付1	77 -	113 -	
6 //		42 //	78 -	114 -	
7 真鍮板加工4		43 ユーフォニアム・テューバハンダ付2	79 -	115 -	
8 //		44 //	80 -	116 -	
9 真鍮板加工5		45 ユーフォニアム・テューバハンダ付3	81 -	117 -	
10 //		46 //	82 -	118 -	
11 真鍮板ハンダ付1		47 ユーフォニアム・テューバハンダ付4	83 -	119 -	
12 //		48 //	84 -	120 -	
13 真鍮板ハンダ付2		49 ユーフォニアム・テューバハンダ付5	85 -	121 -	
14 //		50 //	86 -	122 -	
15 真鍮板ハンダ付3		51 サックスハンダ付1	87 -	123 -	
16 //		52 //	88 -	124 -	
17 真鍮板ハンダ付4		53 サックスハンダ付2	89 -	125 -	
18 //		54 //	90 -	126 -	
19 真鍮板ハンダ付5		55 サックスハンダ付3	91 -	127 -	
20 //		56 //	92 -	128 -	
21 トランペットハンダ付1		57 サックスハンダ付4	93 -	129 -	
22 //		58 //	94 -	130 -	
23 トランペットハンダ付2		59 サックスハンダ付5	95 -	131 -	
24 //		60 //	96 -	132 -	
25 トランペットハンダ付3		61 フルートハンダ付1	97 -	133 -	
26 //		62 //	98 -	134 -	
27 トランペットハンダ付4		63 フルートハンダ付2	99 -	135 -	
28 //		64 //	100 -	136 -	
29 トランペットハンダ付5		65 トロンボーンハンダ付1	101 -	137 -	
30 //		66 //	102 -	138 -	
31 ホルンハンダ付1		67 トロンボーンハンダ付2	103 -	139 -	
32 //		68 //	104 -	140 -	
33 ホルンハンダ付2		69 まとめ	105 -	141 -	
34 //		70 //	106 -	142 -	
35 ホルンハンダ付3		71 テスト	107 -	143 -	
36 //		72 //	108 -	144 -	
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○	(出席・筆記) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験		(実技) A評価 100～85	B評価 84～75	C評価 74～65	D評価 64～ E評価 未受験
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

金管修理(凹み) I

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容	各楽器、様々な箇所の凹み修理を実習し注意点や方法を学ぶ。				
到達目標	凹み修理の技術を身につけ、さらには技術の向上を目的とする。				
教材	実習用楽器				

年間授業計画

1	凹み修理工具加工1	37	ユーフォニアム・テューバ凹み修正2	73	-	109	-
2	〃	38	〃	74	-	110	-
3	凹み修理工具加工2	39	ユーフォニアム・テューバ凹み修正3	75	-	111	-
4	〃	40	〃	76	-	112	-
5	トランペット凹み修正1	41	ユーフォニアム・テューバ凹み修正4	77	-	113	-
6	〃	42	〃	78	-	114	-
7	トランペット凹み修正2	43	ユーフォニアム・テューバ凹み修正5	79	-	115	-
8	〃	44	〃	80	-	116	-
9	トランペット凹み修正3	45	サックス凹み修正1	81	-	117	-
10	〃	46	〃	82	-	118	-
11	トランペット凹み修正4	47	サックス凹み修正2	83	-	119	-
12	〃	48	〃	84	-	120	-
13	トランペット凹み修正5	49	サックス凹み修正3	85	-	121	-
14	〃	50	〃	86	-	122	-
15	トロンボーン凹み修正1	51	サックス凹み修正4	87	-	123	-
16	〃	52	〃	88	-	124	-
17	トロンボーン凹み修正2	53	フルート凹み修正1	89	-	125	-
18	〃	54	〃	90	-	126	-
19	トロンボーン凹み修正3	55	フルート凹み修正2	91	-	127	-
20	〃	56	〃	92	-	128	-
21	トロンボーン凹み修正4	57	フルート凹み修正3	93	-	129	-
22	〃	58	〃	94	-	130	-
23	トロンボーン凹み修正5	59	フルート凹み修正4	95	-	131	-
24	〃	60	〃	96	-	132	-
25	ホルン凹み修正1	61	拔差管凹み修正1	97	-	133	-
26	〃	62	〃	98	-	134	-
27	ホルン凹み修正2	63	拔差管凹み修正2	99	-	135	-
28	〃	64	〃	100	-	136	-
29	ホルン凹み修正3	65	拔差管凹み修正3	101	-	137	-
30	〃	66	〃	102	-	138	-
31	ホルン凹み修正4	67	拔差管凹み修正4	103	-	139	-
32	〃	68	〃	104	-	140	-
33	ホルン凹み修正5	69	まとめ	105	-	141	-
34	〃	70	〃	106	-	142	-
35	ユーフォニアム・テューバ凹み修正1	71	テスト	107	-	143	-
36	〃	72	〃	108	-	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	(出席・筆記) A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～				
筆記試験						
実技試験	○	(実技) A評価 100～85 B評価 84～75 C評価 74～65 D評価 64～ E評価 未受験	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

金管修理(可動部調整)Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容		各楽器、様々な可動部の修理を実習し注意点や方法を学ぶ。			
到達目標		各楽器可動部の修理技術を身につけ、さらには技術の向上を目的とする。			
教材		実習用楽器			
年間授業計画					
1 ピストン調整1		37 拔差管調整1	73 -	109 -	
2 "		38 "	74 -	110 -	
3 ピストン調整2		39 拔差管調整2	75 -	111 -	
4 "		40 "	76 -	112 -	
5 ピストン調整3		41 拔差管調整3	77 -	113 -	
6 "		42 "	78 -	114 -	
7 ピストン調整4		43 拔差管調整4	79 -	115 -	
8 "		44 "	80 -	116 -	
9 ピストン調整5		45 拔差管調整5	81 -	117 -	
10 "		46 "	82 -	118 -	
11 ピストン調整6		47 拔差管調整6	83 -	119 -	
12 "		48 "	84 -	120 -	
13 ピストン調整7		49 拔差管調整7	85 -	121 -	
14 "		50 "	86 -	122 -	
15 ピストン調整まとめ		51 拔差管調整まとめ	87 -	123 -	
16 "		52 "	88 -	124 -	
17 テスト		53 テスト	89 -	125 -	
18 "		54 "	90 -	126 -	
19 ロータリー調整1		55 スライド調整1	91 -	127 -	
20 "		56 "	92 -	128 -	
21 ロータリー調整2		57 スライド調整2	93 -	129 -	
22 "		58 "	94 -	130 -	
23 ロータリー調整3		59 スライド調整3	95 -	131 -	
24 "		60 "	96 -	132 -	
25 ロータリー調整4		61 スライド調整4	97 -	133 -	
26 "		62 "	98 -	134 -	
27 ロータリー調整5		63 スライド調整5	99 -	135 -	
28 "		64 "	100 -	136 -	
29 ロータリー調整6		65 スライド調整6	101 -	137 -	
30 "		66 "	102 -	138 -	
31 ロータリー調整7		67 スライド調整7	103 -	139 -	
32 "		68 "	104 -	140 -	
33 ロータリー調整まとめ		69 スライド調整まとめ	105 -	141 -	
34 "		70 "	106 -	142 -	
35 テスト		71 テスト	107 -	143 -	
36 "		72 "	108 -	144 -	
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○	(出席・筆記) A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～			
筆記試験	○				
実技試験					
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない					

金管応用修理Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容	各自で修理内容に適した修理方法を判断しそれを行う。				
到達目標	溶接・凹み・可動部調整の修理技術を応用し、特殊な修理内容に対応する技術を身につける事を目的とする。				
教材	実習用楽器				

年間授業計画

1	ロウ付1-1	37	機械加工1-4	73	-	109	-
2	"	38	"	74	-	110	-
3	ロウ付1-2	39	機械加工1-5	75	-	111	-
4	"	40	"	76	-	112	-
5	ロウ付1-3	41	機械加工2-1	77	-	113	-
6	"	42	"	78	-	114	-
7	ロウ付1-4	43	機械加工2-2	79	-	115	-
8	"	44	"	80	-	116	-
9	ロウ付1-5	45	機械加工2-3	81	-	117	-
10	"	46	"	82	-	118	-
11	ロウ付2-1	47	機械加工2-4	83	-	119	-
12	"	48	"	84	-	120	-
13	ロウ付2-2	49	機械加工2-5	85	-	121	-
14	"	50	"	86	-	122	-
15	ロウ付2-3	51	ネジ加工1-1	87	-	123	-
16	"	52	"	88	-	124	-
17	ロウ付2-4	53	ネジ加工1-2	89	-	125	-
18	"	54	"	90	-	126	-
19	ロウ付2-5	55	ネジ加工1-3	91	-	127	-
20	"	56	"	92	-	128	-
21	管体穴あき修正1-1	57	ネジ加工1-4	93	-	129	-
22	"	58	"	94	-	130	-
23	管体穴あき修正1-2	59	ネジ加工1-5	95	-	131	-
24	"	60	"	96	-	132	-
25	管体穴あき修正1-3	61	パーツ加工1-1	97	-	133	-
26	"	62	"	98	-	134	-
27	管体穴あき修正1-4	63	パーツ加工1-2	99	-	135	-
28	"	64	"	100	-	136	-
29	管体穴あき修正1-5	65	パーツ加工1-3	101	-	137	-
30	"	66	"	102	-	138	-
31	機械加工1-1	67	パーツ加工1-4	103	-	139	-
32	"	68	"	104	-	140	-
33	機械加工1-2	69	まとめ	105	-	141	-
34	"	70	"	106	-	142	-
35	機械加工1-3	71	テスト	107	-	143	-
36	"	72	"	108	-	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
実技試験						

リペア実習Ⅰ

授業形態		実習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容	実習をとおして楽器への理解・知識を深める。				
到達目標	高いレベルの修理を目指し、修理技術を更に向上させることを目標とする。				
教材	実習用楽器				

年間授業計画

1	技術習得度に合わせた個別指導	37	技術習得度に合わせた個別指導	73	技術習得度に合わせた個別指導	109	-
2	"	38	"	74	"	110	-
3	"	39	"	75	"	111	-
4	"	40	"	76	"	112	-
5	"	41	"	77	"	113	-
6	"	42	"	78	"	114	-
7	"	43	"	79	"	115	-
8	"	44	"	80	"	116	-
9	"	45	"	81	"	117	-
10	"	46	"	82	"	118	-
11	"	47	"	83	"	119	-
12	"	48	"	84	"	120	-
13	"	49	"	85	"	121	-
14	"	50	"	86	"	122	-
15	"	51	"	87	"	123	-
16	"	52	"	88	"	124	-
17	"	53	"	89	"	125	-
18	"	54	"	90	"	126	-
19	"	55	"	91	"	127	-
20	"	56	"	92	"	128	-
21	"	57	"	93	"	129	-
22	"	58	"	94	"	130	-
23	"	59	"	95	"	131	-
24	"	60	"	96	"	132	-
25	"	61	"	97	"	133	-
26	"	62	"	98	"	134	-
27	"	63	"	99	"	135	-
28	"	64	"	100	"	136	-
29	"	65	"	101	"	137	-
30	"	66	"	102	"	138	-
31	"	67	"	103	"	139	-
32	"	68	"	104	"	140	-
33	"	69	"	105	"	141	-
34	"	70	"	106	"	142	-
35	"	71	"	107	"	143	-
36	"	72	"	108	"	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

リペア実習Ⅱ

授業形態		実習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業		
授業内容	実習をとおして楽器への理解・知識を深める。				
到達目標	楽器店・メーカー・修理工房への就職を目指し、修理技術を更に向上させることを目標とする。				
教材	実習用楽器				
年間授業計画					
1 技術習得度に合わせた個別指導		37 技術習得度に合わせた個別指導		73 技術習得度に合わせた個別指導	
2 "		38 "		74 "	
3 "		39 "		75 "	
4 "		40 "		76 "	
5 "		41 "		77 "	
6 "		42 "		78 "	
7 "		43 "		79 "	
8 "		44 "		80 "	
9 "		45 "		81 "	
10 "		46 "		82 "	
11 "		47 "		83 "	
12 "		48 "		84 "	
13 "		49 "		85 "	
14 "		50 "		86 "	
15 "		51 "		87 "	
16 "		52 "		88 "	
17 "		53 "		89 "	
18 "		54 "		90 "	
19 "		55 "		91 "	
20 "		56 "		92 "	
21 "		57 "		93 "	
22 "		58 "		94 "	
23 "		59 "		95 "	
24 "		60 "		96 "	
25 "		61 "		97 "	
26 "		62 "		98 "	
27 "		63 "		99 "	
28 "		64 "		100 "	
29 "		65 "		101 "	
30 "		66 "		102 "	
31 "		67 "		103 "	
32 "		68 "		104 "	
33 "		69 "		105 "	
34 "		70 "		106 "	
35 "		71 "		107 "	
36 "		72 "		108 "	
成績評価方法					
評価対象		出席率によりAからEの評価とする			
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

社会人基礎Ⅰ

授業形態		講義		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容			
授業内容	社会人としての素養を身に付けるため、社会人としてのあり方などを学ぶ。				
到達目標	社会人としての素養を身に付ける。				
教材	自作プリント等				

年間授業計画

1 個別指導(1年次)	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 個別指導(2年次)	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 "	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						